

に子供らしさを増し、如何にも澄済として來たやうに見られます。今月末の調査には、體重もたしかに増して居る事と想像されます。更に來年は、一層設備の點を考へて、身體の虛弱な子供や、個性に注意を要する子達と寢食も共にして、より以上効果を挙げたいと存じて居ります。

園外保育

山崎ひさ

蟹狩り 七月一日午前九時半發

海に這入りたいな、との聲を耳にして、

昨日の約束により、藥用鞄を用意して、三の丸、廣小路を通り、島崎海岸へ引率した。どんよりと曇つた空には、氣もとめず、行進の意氣につれ、歌ふ牛若丸の元氣よさは、町の人々を、驚歎させた程であった。彼等はいつか、撫子組と、菊組が外遊の際、持つて歸つた蟹が、羨やましかつたの

で、今日は蟹狩りの氣分であつた。
魚屋の露店、兩側に並んで賑はしい中を通り、新橋を渡り、やがて稻荷神社についた。一同參拜を終つて海邊近く引率した。
一同瞭然と、舞鶴灣は、靜な海上に、二三の發動船を玩具のやうに、浮かべ、丹後富士の雄姿は其の美しい影を四方の連山と手をとつて、水に寫してゐた。子等は思ひくに語りだした。その鋭敏な觀察は驚異の眼をはり全身全靈の緊張を示し、得も云へぬ尊さであつた。

海をごらん、今日は、あの様に、波はなく靜でせう。ところが、風が吹き、大波がきたら、どうでせうか。今あなたらの頭の上迄も、來るのですよ。この高い蘆の上には、泥が付いて居ます。それから、此の柔い路を、考へてごらん。小さな穴が、いくつもくも、あつて、何かで突いたら、直ぐ

水が出るでせう。穴の奥には、蟹さんのち家があるでせうね。

あの高いち山はと、聞けば、富士山、砲臺山と
口口に活潑な答。時に、ピチ／＼、みな顔
は一齊に、ち空に輝いた。くる／＼と舞ふて、囁
る、三四羽の雲雀。何と云ふ美しい聲、美しい姿
であつただらう。あの沈黙の歡喜は何と記する言
葉も無い。無限の感謝であつた。

海へは入らぬ様約束をして、自由遊びを命じた。

子等は今こそ大樂園、身も心も輕々と、野に轉る雲雀のごと、海にとぶかもめの様、山に野に海に、思ひを高く廣くして、大自然の母に抱かれつゝ嬉

やがて、龜井正美さん、見事蟹を征服して來りニコ／＼顔、さあ／＼つて、數名の男女兒によつて縛り、蟹獨特の歩行を、興味深く觀察した。

岩室も、森谷も、子蟹を捕へて紐に縛るのは、

容易ではなかつた。ふと彼方に、洋服の裾をからげ、海水に浸りゐる男女兒ありて、かけつけてゐるに、先生、貝が、魚が、目高が、ゑびが、あれはなに、これは何と、とてもつきぬ喜びであつたが危険を怖れて、集合し、歸途につかしめた。原田敏夫さんの手には、大きな筆があつた。林田さんのハンカチには、やどかりが、包まれてあつた。其他ポケットには、それ／＼の大切な獲物があつた。

新橋にさしかゝつたら、ポツ／＼雨が落ちた。然と樂げであつた。

道行く人々は、幼児の手にさがつた子蟹を見かへりつゝ、ほゝ笑みてなにをか懷しげであつた。二時無事歸國して楽しいち辨當にち箸をとりつゝ話は盡きなかつた。

海邊より
持ち歸りたる
蟹の子に

お辯當分つ 可愛し 森谷

平素純眞な幼児をより純眞に導きたいと、念じ

て、出來得る限り大自然に接せしめて、保育の純化を計つてゐます。園外保育の効果は、今更述べるまでもない事でございますが、之を簡単な記録となして、時折にふれ談話の題材とし、或は、追憶談とし、或は日記から、談話の實生活を、味はゝせることも、幼児にとつて大きな愉悦であり、又保育のよき研究となるものであります。私が、多忙の旁記録した中の、この一例を、幼児の疲れた時に讀んでさへ、彼等は、もつとくと要求致します。

巴里便り ——小林宗作氏より——

です。氏は日本リトミック協會組織のため、今春再び渡歐されました。（神原）。

（前略）日本リトミック協會組織の件も無事本部の承認を時ましてダルクローズ先生直屬の堅實なものとなりましたから之又御休心下さいませ。又私の研究の方もいろいろ面白いものを見出しましてだん／＼展開されて参ります。リトミックもダルクロンズ先生のリトミックが主として音樂的、時間のリズム研究に對しデユデインといふ人が空間リズムの研究から幾何學的リトミックといふのを創案されました。之は數學的であると同時に意匠、圖案、體育、舞踊、パレード、劇等の基礎教育としても非常に面白いものであります。私はダルクローズのリトミックと、此の幾何學的リトミックとを結合させると一層面白い綜合的な、藝術的教育が行はれる事と思ひまして今此の方を専心研究してゐます。音樂教育にもいろいろ新しい改造

左記は小林宗作氏からいたゞいたち便りの一節